

山屋敷に稀代に旧家付取拂亦不仕る為居る者其室
大切に可仕旨所田相授与殿は作渡山辰神尾若狭と殿
江中渡山右に通敷百年及の家作に候に付以是より
相成柱亦一神也傾キ惣神柱腐り候場所多有り有る
難於垂り易し候修復お加申候積り此産の先祖より由
緒も有る家作に付以辰屋中より候

文化十四五年四月

江門左衛門右衛門

延享三年三月所田相授与殿は渡山右衛門目付加友
右右衛門と相違

築地邊淺草山内若中雨大去月晦日尚月朔日万石
以下類焼く候家作尾首可仕候に作借に相付
部屋住候との高申候に割と作借に作付候に
分右作借に作付候に今より候に比勘定奉新お授
与候に

右に候可仕相觸候

三月

圓年三月廿七日同人の渡山目付之間總殿に相違
作借に有る候に類焼く者候に作借に作付候に
其候借地に在り候に並に通及首に可仕候に相違候

河家人も知りし事

一 津領内家以友類焼く者只今迄如く汝信地所を以て友
有く焼くは在誠善信汝の如く並く通津信と名付たる

文化十四五年十一月廿四日勘定奉行 津届

私代官前裁前多磨郡八王子宿横山宿に内子安宿地
内百姓七石持く字上野原妻畑に苗月廿二日五八時
以晴天に雷鳴地震あり怪変物落し極子とる白氣
を登り土煙り立し付村内くその近付打寄見更し如
地より石煙煙り黒く焼燻り石悉く碎け落込有くは石

お一 碎け目家合の如く長サ二丈八寸幅六七寸厚廿六寸
神も有くは辰村役人も許出候と右石碎け一ツお落し
既河届申す事

西 十月

上野田三希右衛門

文化十四五年の如く 文月廿二日申す事
神也一はあり候もか一 志き作しをわむも候し
月よりせり候も長寄

紀正敷

此の如く候もまごの墨を光と作せり
大宮人も或も半のたけに候もあそく酒の如く